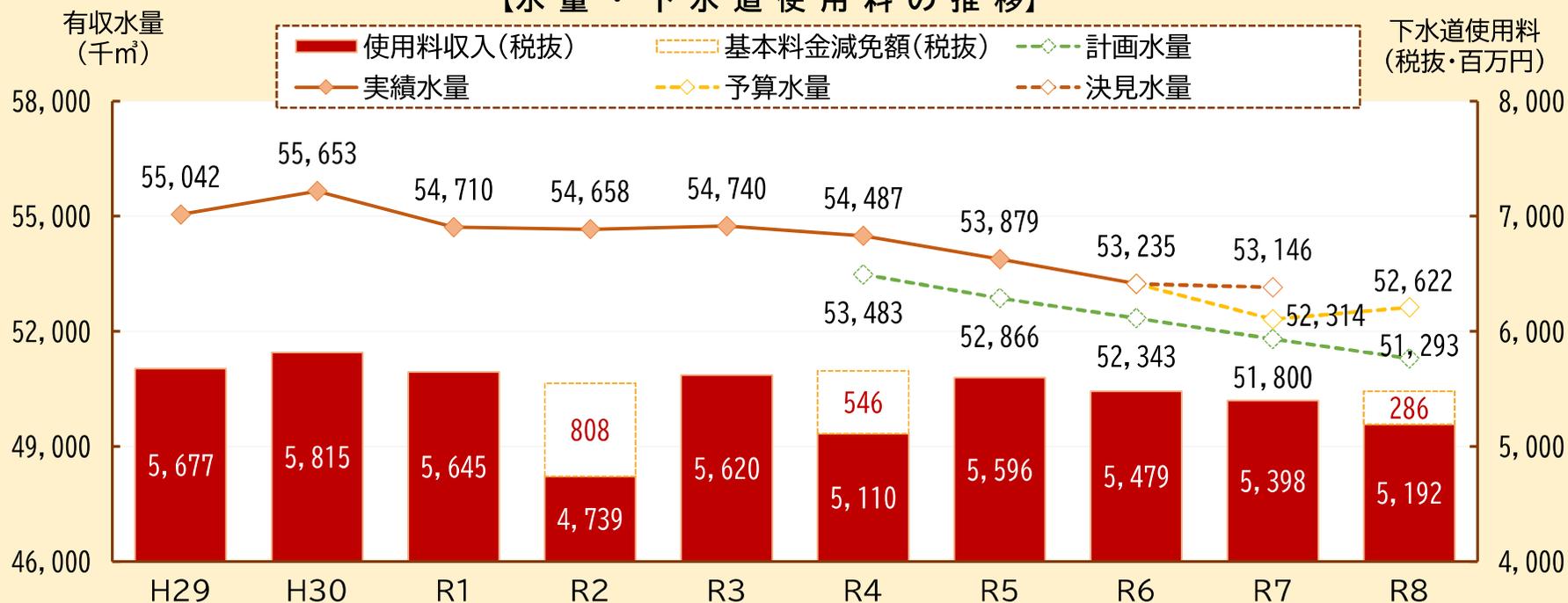


下水道事業会計

1 事業の概要

区分	令和8年度	令和7年度	増減	増減率
有収水量	52,621,721 m ³	52,314,417 m ³	307,304 m ³	0.6%

【水量・下水道使用料の推移】



- 令和8年度当初予算の水量は前年度決見を基に減少を見込んだ結果、当初予算比較では、有収水量は0.6%増（水道:0.7%増・工業用水ユーザー:1.6%増）となる5,262万m³（使用料収入は減免により減）
- 近年は水量が減少傾向（令和6年度決算 5,324万m³⇒7年度決見 5,315万m³⇒8年度予算 5,262万m³）
- 令和2年度、4年度、8年度は基本使用料の減免の影響あり（令和4年度、8年度は一般会計補助金により補てん）

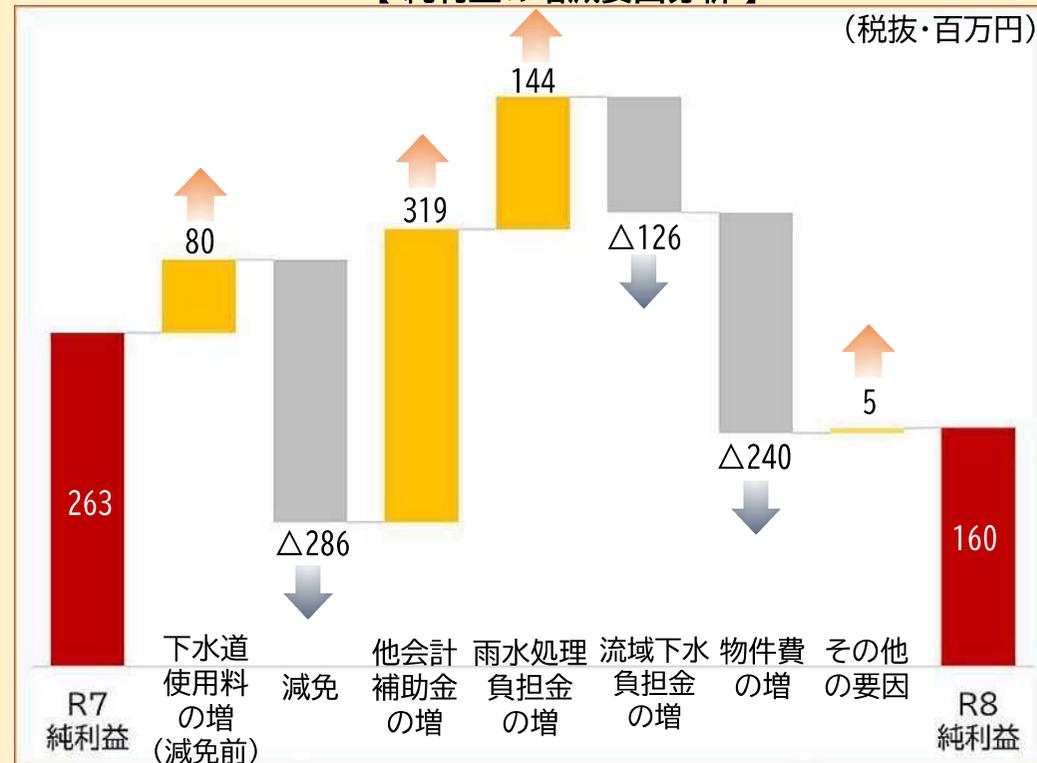
下水道事業会計

2 収益的収支・資本的収支（フローの視点）

（税込・百万円）

		令和8年度	令和7年度	増減額	
収益的収支	収入	13,877	13,595	①	282
	支出	13,394	13,034	②	360
	収支差	483	561		△ 78
	純利益（税抜）	③ (160)	(263)		(△ 103)
資本的収支	収入	4,525	3,294		1,231
	支出	9,685	8,141		1,544
	差引(A)	④ △ 5,160	△ 4,847		△ 313
	補てん財源(当年度発生分)(B)	4,219	4,282		△ 63
	資金収支(A+B)	△ 941	△ 565		△ 376
	資金残高	⑤ 16,822	17,763		△ 941

【純利益の増減要因分析】



- 収益的収支の収入は2億8千万円の増（①）、支出は3億6千万円の増（②）、純利益は1億円の減で1億6千万円(③)
- 資本的収支不足額は51億6千万円（④）で、その補てんを反映した資金残高は168億2千万円（⑤）

- 純利益は、経常収益の面で改善要因があった（減免前の下水道使用料は増、減免分は一般会計補助金で補てん）ものの、物件費や流域下水道負担金の増などの悪化要因があり、全体で1億円の減

下水道事業会計

3 収益的収支・資本的収支の内訳

収益的収入

(税込・千円)

	令和8年度	令和7年度	増減額
下水道事業収益	13,877,187	13,595,364	281,823
經常収益	13,877,186	13,595,363	281,823
下水道使用料	5,711,021	5,937,519	△ 226,498
雨水処理負担金	4,559,339	4,415,366	143,973
他会計負担金	66,030	71,575	△ 5,545
他会計補助金	327,633	9,053	318,580
長期前受金戻入	2,879,643	2,914,182	△ 34,539
その他収益	333,520	247,668	85,852
特別利益	1	1	-

収益的支出

	令和8年度	令和7年度	増減額
下水道事業費用	13,393,776	13,034,187	359,589
經常費用	13,389,776	13,030,187	359,589
人件費	564,592	555,749	8,843
給料・手当等	480,466	458,976	21,490
退職給付費	84,126	96,773	△ 12,647
動力費	538,910	534,061	4,849
流域下水道維持管理負担金	1,683,775	1,545,711	138,064
流域下水道汚泥処理負担金	100,945	95,388	5,557
減価償却費等	6,613,441	6,635,315	△ 21,874
支払利息	353,878	347,180	6,698
物件費	3,534,235	3,316,783	217,452
特別損失	4,000	4,000	-

資本的収入

(税込・千円)

	令和8年度	令和7年度	増減額
下水道事業資本的収入	4,524,716	3,293,877	1,230,839
企業債	1,760,900	1,400,000	360,900
国庫補助金	2,607,251	1,780,506	826,745
他会計補助金	1,110	1,089	21
負担金	155,454	112,281	43,173
固定資産売却代	1	1	-

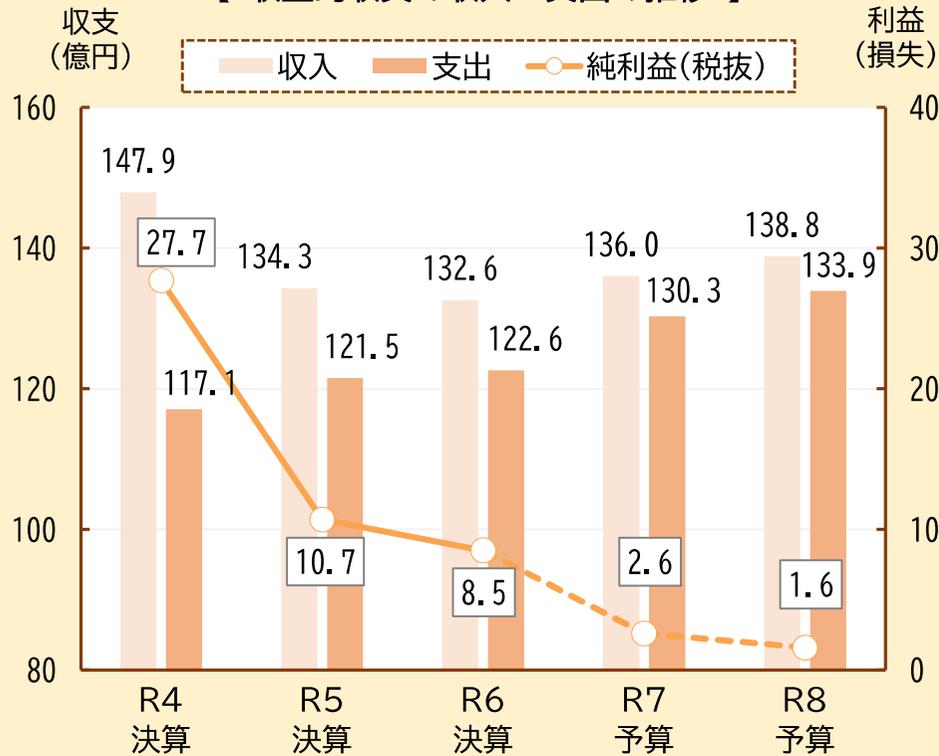
資本的支出

	令和8年度	令和7年度	増減額
下水道事業資本的支出	9,684,634	8,141,070	1,543,564
人件費	258,459	273,396	△ 14,937
公共下水道整備費	407,645	341,044	66,601
施設改良費	5,461,007	4,498,686	962,321
流域下水道整備費	461,002	346,330	114,672
企業債償還金	2,074,152	1,674,090	400,062
投資有価証券	1,000,000	1,000,000	-
固定資産購入費等	21,369	6,524	14,845
予備費	1,000	1,000	-

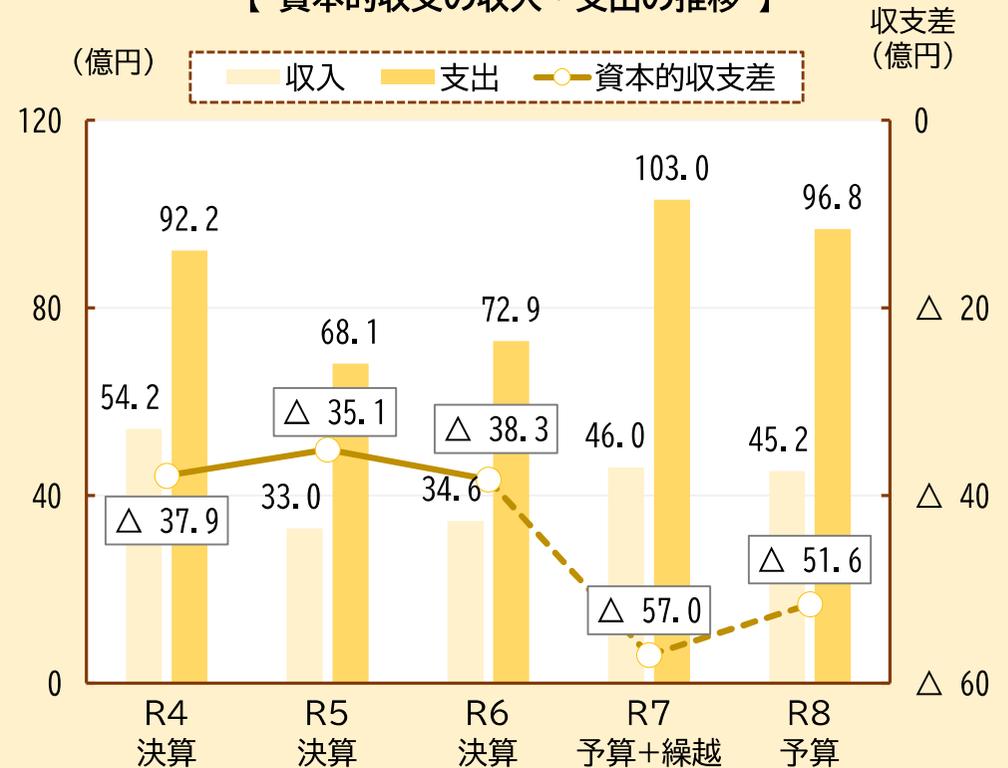
下水道事業会計

4 収益的収支・資本的収支の推移

【 収益的収支の収入・支出の推移 】



【 資本的収支の収入・支出の推移 】



- 主な収入は下水道使用料（57.1億円）、雨水処理負担金（45.6億円）など
- 主な支出は減価償却費（65.4億円）、物件費（35.3億円）など
- 収益的収支の支出は年々増加しており、純利益は減少傾向

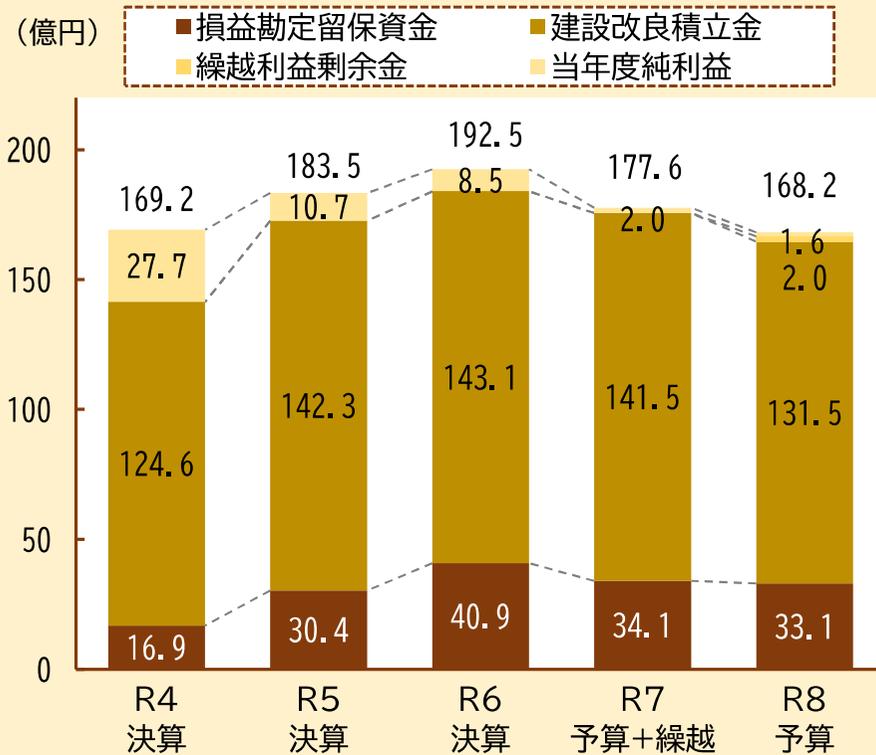
- 主な収入は国庫補助金（26.1億円）、企業債（17.6億円）など
- 主な支出は施設改良費（54.6億円）、企業債償還金（20.7億円）、投資有価証券（10億円）など
- 資本的収支不足額は損益勘定留保資金等により補てん

※（ ）内はR8予算

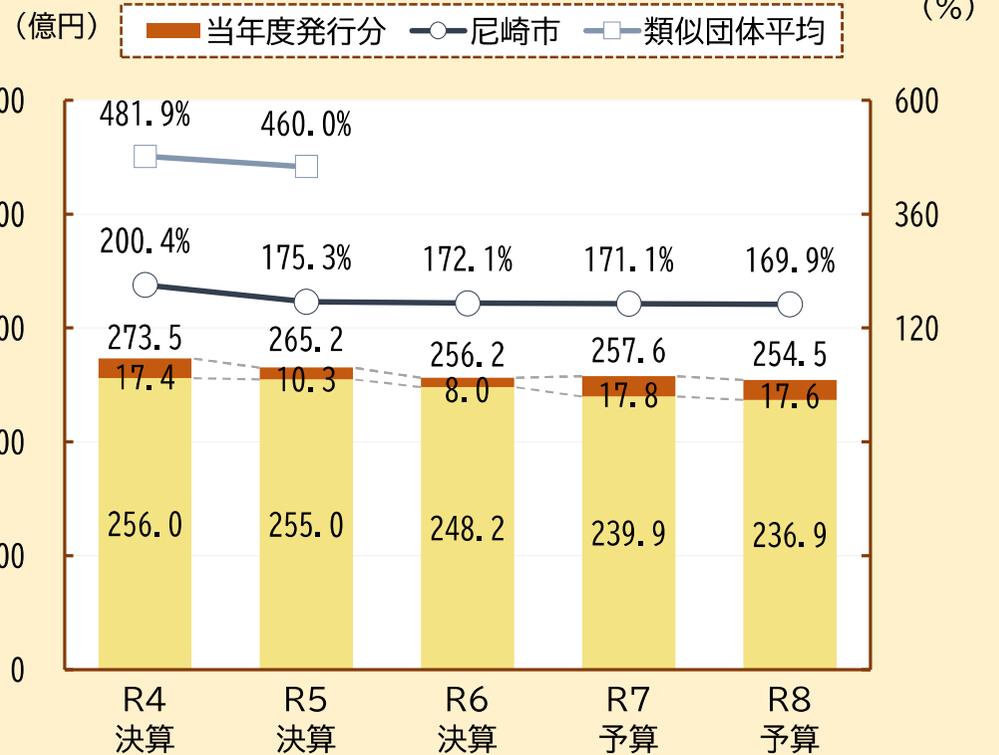
下水道事業会計

5 累積資金・企業債残高の推移（ストックの視点）

【累積資金残高の推移】



【企業債残高の推移】



資金収支の推移

	(億円)				
	R4	R5	R6	R7	R8
資本的収支の差(A)	△ 38	△ 35	△ 38	△ 57	△ 52
補てん財源(B)	67	49	47	42	42
資金収支(A+B)	29	14	9	△ 15	△ 9

※R4~6:決算、R7:予算+繰越、R8:予算

企業債の発行・償還・残高の増減

	(億円)				
	R4	R5	R6	R7	R8
発行額(A)	17	10	8	18	18
償還額(B)	22	19	17	16	21
残高の増減(A-B)	△ 4	△ 8	△ 9	1	△ 3

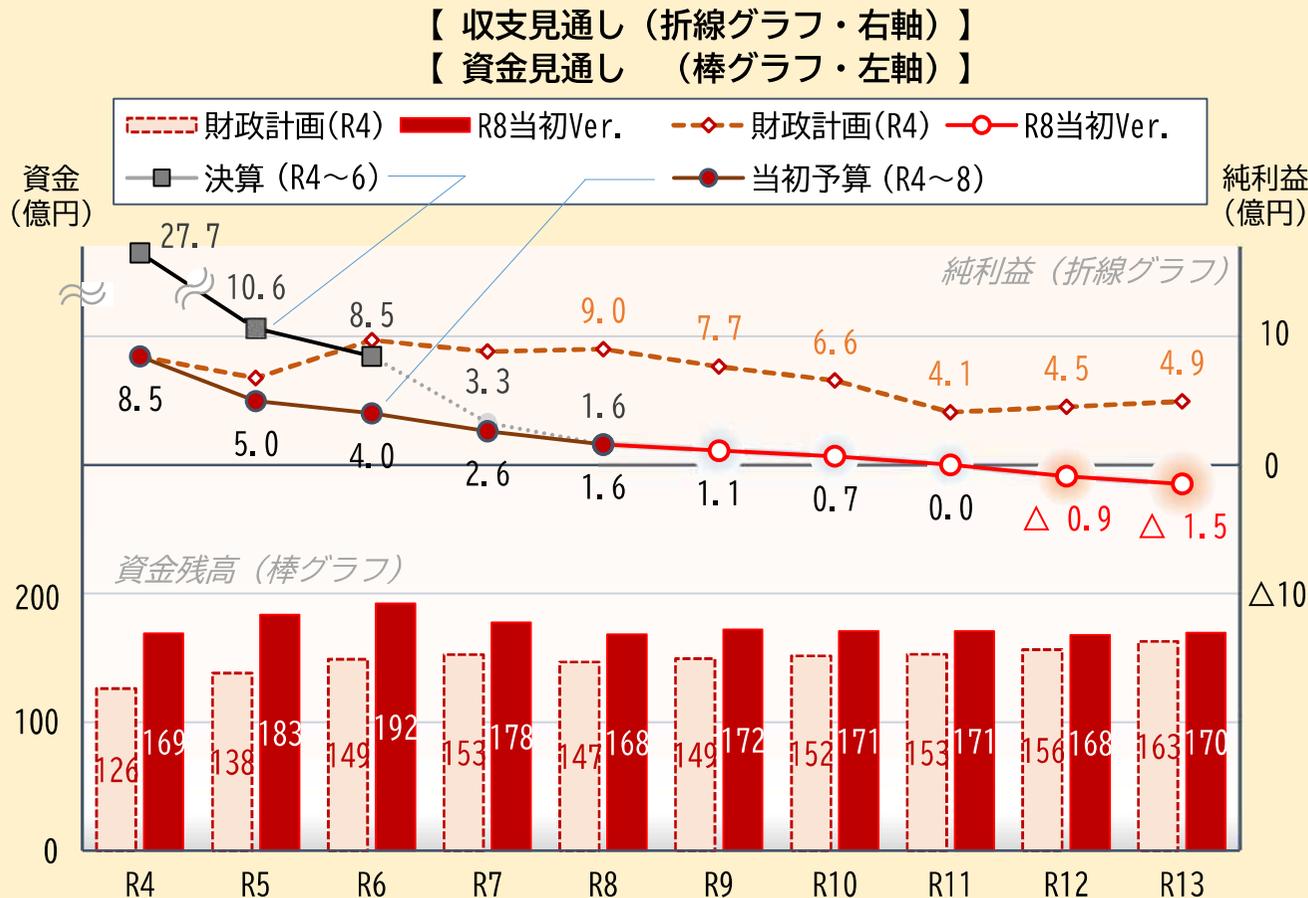
※R4~6:決算、R7~8:予算

※企業債残高対事業規模比率：(企業債残高 - 一般会計負担額) ÷ (営業収益 - 受託工事収益 - 雨水処理負担金) × 100

※類似団体：処理区域内人口10万人以上かつ人口密度100人/ha以上の団体

下水道事業会計

6 財政計画との比較（収支見通しのローリング）



【収支見通し(純利益)】

	R4	R5	R6	R7	R8
財政計画(R4)	8.5	6.8	9.7	8.8	9.0
R8当初Ver.	27.7	10.6	8.5	3.3	1.6
差引	19.2	3.9	△ 1.3	△ 5.5	△ 7.4

	R9	R10	R11	R12	R13
財政計画(R4)	7.7	6.6	4.1	4.5	4.9
R8当初Ver.	1.1	0.7	0.0	△ 0.9	△ 1.5
差引	△ 6.5	△ 5.9	△ 4.1	△ 5.4	△ 6.4

※R8当初Ver. R4~6:決算、R7:決見、R8:当初予算

【資金見通し】

	R4	R5	R6	R7	R8
財政計画(R4)	126.4	138.2	149.1	152.5	146.9
R8当初Ver.	169.2	183.5	192.5	177.6	168.2
差引	42.8	45.3	43.4	25.1	21.3

	R9	R10	R11	R12	R13
財政計画(R4)	149.5	151.8	152.8	156.4	162.8
R8当初Ver.	172.1	170.9	170.9	167.8	169.6
差引	22.7	19.1	18.1	11.3	6.8

※R8当初Ver. R4~6:決算、R7:決見、R8:当初予算

- 水量予測、事業進捗等を基に置換（下水道使用料、建設改良費&国庫・企業債・減価償却費等、各種経費&雨水処理負担金）
- 置換前と比較して下水道使用料や雨水処理負担金の上振れがあったものの、各種経費の上振れ（R9-13平均:負担金↑7.8億/年、修繕費↑2.5億/年、委託料↑2億/年）により、赤字が見込まれるタイミングはR12年度（置換前:R16年度）となるなど見通しは悪化
- 大規模な建設改良（雨水貯留管、東部雨水ポンプ場建替等）の事業期間が置換前より後年度となったことに伴い、減価償却費等は下振れしたものの、今後それらの事業が進むにつれ減価償却費等の増により更に収支が悪化する見込み（同時に資金も減少）